女學雜誌

明治十八年初刊

每週土曜日發兌

第三百七十六號

要目

◉社説　『覺悟』の養成

◉開書　主婦となりし女學生の述懷

◉隨感　吁、われ退ぞきたる乎

◉史傳　今年もすでに花は散りたり

◉雜錄　赤十社とクララ、バートン

◉女學　女流文學

◉逸事　學校組織は何故に必用なる乎

素町人元祿武士

明治二十七年四月廿一日發兌

VASON
Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

第三百七十六號目録

社説

覺悟の養成

開書

主婦となりし女學生の述懐（賤の女）

ホーム教育なし

人情といふこと

人生の九分九厘は俗事より成立つ

誠實を加へよ、儀式は省ぶく可からず

値は僅か二錢にして無量の贈物

隨感

可、われ退きたる乎

今年もすでに花は散りたり

史傳

赤十字社とクララ、バートン女史

救助の手つねに備はる

出でゝ救ふ年々臨歳なし

最近最大のはたらき

美なる哉赤十字

逸事

報徳夜學校

素町人元禄武士

竹の操（第一枝）

論説

嬰兒の精神及び其發達（竹内楠三）

雜錄

女流文學（龍島雪子）

女學

西洋風女子教育（上）

學校組織は何故に必要なる乎

寄書

ハムレット曲中のヲフヘリアを論ず（續）

片々

石井十次氏を傷つけんとせしもの

氣力養成、憐れむべきは富人の子

時報

岡山山陽女學校○東京女子聖書學館○
子高等學校○淑榮女學校○跡見女學校○
の巡視と中學の騒擾○相愛女學校○教科
書の採定○各直轄學校教員生徒の現數○
寺院會○秋の婦人會○忌まわしき報知
け女史の習字帖處に及ぶ○印度國早婚の
○日本婦人協風會本邦大會○本年三月中 [redacted]

社報告告

女學雜誌

第三百七十六號

明治二十七年四月廿一日發兌

社說

「覺悟」の養成

人に重んずべきは、覺悟の二字にあり。

覺悟は、決心より來る。胸をさだめ、思ひを決し、斷乎、牢乎として安んずる所ろのものあつて、而して、覺悟なるもの生ず。故に、覺悟は、輕薄の人にあつて存するとなし。狐疑逡巡するの人にあつて存するとなし、掛念心配し本我うつろにして只だ外に待つ所ろの人にあつて存するとなし。覺悟は、度胸なり。覺悟は、膽力なり。覺悟は、安心立命なり。たとへば、巨木の如きか、安くんぞ、軟土泥濘のうちに確立せんや。たとへば、明月の如きか、安くんぞ輕波紋雜の中に現映せんや。

覺悟なき人は、經綸なし。成す所ろ汎々として定まらず。此を以て能く始あるとなく亦克く終あるとなし。常に圓轉惶忙として、截然たる路節を畫するとあらず。其の一生は曖昧なり、其の事業は混雜なり。

覺悟なき人は、確信なし。之を守つて固きと能はず、之を執つて緊しきと能はず、之に迫つて厲しきと能はず、之に耐へて久しきと能はず。此を以て、つねに狐疑し、又つねに煩悶し、斷乎として進むとをせず、潔然として退ぞくとをせず、快々として中半に彷徨す。其の進行は、蹌踉たり、其の印跡は、迂曲なり。

巧みに說き、曲さに辨じ、喃々嘵々として多く言の葉を積むと雖ども、之に嚴然たる意義なし。遂に其聲を高くすれども、人の胸腹に徹底すると能はざるは、斷乎たる覺悟なきを以ての故なり。人に說きて人動かず、人を勵まして人起たず、人を叱して人怖れず、其言語、死せる響に外ならず。如此きは、皆な、覺悟なきに由る。

死を決す、此の故に生死の恐怖の外にあり。成敗を顧慮せず、此の故に成敗の誘惑の外にあり。先づ意を決して起たずんば、奔走は騒ぎのみ、進歩は足を動かすのみ、人の事功としてそれ何の意義あらんや。

今の學問、道德、宗教、皆ともに此點の事に造詣あり。其の智は、極を穿つに足り、其の理想は、天に上るに足り、其の神學は、鬼を泣かしむるに足る。而も、一の覺悟を欠くの故に、すべて死せり。學ばざるに若かざる也。修めざるに若かざる也、信ぜざるに若かざる也。嗚呼、文字の人、徹頭徹尾苦して得る所ろ、果して何物ぞ。

人は曰く、女子教育は新日本に於て生まれん、舊日本に於ては、曾て聞かざる所ろ也と。吾人、試みに一事を問はん。今の女學生を以て、古への武家の婦人に比較し、覺悟の一點を評するは、そも〳〵何れか多きぞ。今の女子教育者たるもの、深く戒しめずんばある可らず。

覺悟を養ふは、死を決するより善きはなし。古にありては、武家の男子、身命を君主に獻げ、女子、一生を良夫に許せたり。體面は生命なり、家名は良心なり、廉恥節義、貞操潔白は、全天地なり。一と度び此等を傷つけんとするものあれば、死を決して、闘ふ。而ふして此の死を決すべき場合、足下に湧き起る。封建の世、日夜に太平なし、不斷、警戒して苟くも懶怠せず。此に於てか、所存の覺悟、眠ると少なし。

憐れむべし、文明の世の人。武斷の戰ひなきを以て、世は太平なりと心得、劍戟に切られざるを以て大丈夫なりとし、茲に更に一種の生命あることを忘れ、之を失ふを以て文明國人の死滅せることを覺らず。たゞ息を吹き、脈を斷たざるを以て人の爲なりとなす、此に於てか、所謂る死を決するの場合極めて稀となり、覺悟の膽いよ〳〵緩るむ。

大言壯語多きは、懦弱流行の兆なり。喧囂多舌なるは、覺悟衰弱の證なり。世上、默々の人少なくして、理論の人多く、溫恭謙遜の人乏しくして、不謹慎の出しやばり多し。たとひ、教育の普及大感化は、時勢にありと云ふと雖も、而も教師、書生を感化するの功、豈に少なからんや。何んぞ、今の教育に、覺悟を教ゆるとの稀にして、ことに、女子教育に於て之を鼓吹するとの如此く少なきや。

大ひなる覺悟は、大ひなる場合にあらずんば顯はるゝとなし

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

然れども、之を生平卑近の間だに教示するの道、綽々として存す。かの沈重剛毅の人、深く書生に接すること多からずして而して之を化するの方完きを得ずと云ふとあるも、何んぞ、亦た其眞光を露はして輝々として之を照らすの方あらずとせんや。要は、教育の方術として、其道を考ふる事の倘ほ足らざるとを憾むべきもの多し。

もし夫れ、覺悟を教ゆるとを知らざるの教師。之を學び之を脩むるとを知らざるの書生に至つては、滔々として多し。先づ以て此般の人の大いに警醒するとを促がさゞるを得ず。断言す、覺悟なきの學問は、死せる學問なり。覺悟なき道徳は、死せる道德なり。覺悟なき信仰は、死せる信仰なり。覺悟なき時は、すべて徹底せず、安着せず、堅固ならず、强剛ならず、遂に特色なし、自得なし、品性なし。万事即はち空にひとし。未だ有らざるにひとし。全く無きにひとし。

今年花似＝去年好＿　　去年人到＝今年＿老、

始知人老不レ如レ花、　　可レ惜落花君莫レ掃。

閑書

主婦となりし女學生の述懐

（其二）　　賤の女

ホーム教育なし

振り別がみの頃に母を失ない、養母は俗にいふ腹痛めたるとなき婦人といひ、遂に慈母が温愛の味わひを知らず生立候ものから、身は人生教育の最大要素を欠きたる不幸ものに有之候。尤も暫時にして其手をも離れ、さる宗教學校の恩庇をうけ、十數年一日の如く、師の撫育を辱ふせしとにて、我が生れし時代と、置かれし境遇に對して考ふる時は　此時與へられたる者に増したるホームなく、恩愛深き師に越たるフオスタ、ペーレンツ（假の親）なしと固く信じ、感謝の念さへ怠りなく養ひ居り候となるが、さりとて、孵卵器に生立し雛鳥の牡鷄のは

がひに温まりしものに比して何となく、物足らぬ處有之候如く、學校教育は宗教觀念に、文學思想にいとも豊やかにして他に得られぬ特色ありて、此器械に不完全なしとするも、天然が備へし手術に全然代ふることは六ヶ敷ことに存候。それかあらぬか、人生常數の中半を過ごし候迄も、自分の

　人情といふこと

に疎かりし度合、顧みて長歎息の外無之候。凡そ生るゝといひ、死するといひ、病むといひ、愈ゆるといひ、得失、盛衰、浮沈、人世普通の出來事に對し、自分の心の動かざりしこと、同情の伴はざりしこと、眼にし耳にするも一切冷淡無頓着なりしこと、我ながら訝し敷相成候。師の君の心を籠めて、日夜に說聞かされ候大善、大慈の偉生涯、尤も、高き人情の模範にとて天より賜はりし彼の人の記錄も何と承り候ものか。レ、ミゼラブルはたゞよく出來た小說とのみ思ひしが、どこまで浮薄であつたかと恥かしくも口惜しく存候。今日に至り候ても此點に於て決して〳〵熟達したりなどとは存不申、只以前背しと已思ひ僻めし西瓜の中身を誠に錐で穿ちたる程窺ひ知れりといふまでに御坐候。宗教のことは敢えて申すに及ばず、此邊教科書外の教育に至つて有力、有効の機械と存候は、稗史、小說に有之候。青年男女の嗜好も非常に爰に集まるもといひ、教導者たる方々は一層此點に御注意下され、有益、無害なる者の撰擇、並に讀中着眼す可き廉々を存分御心添へ頂き候はゞ讀者將來の爲め如何計りの幸ならんと考へ申候。其他時々社會に現はれ候活小說とも唱ふ可き著しき事變並に近く眼下に目擊致し候個人的の小事變、たとへば、同窓の失敗、隣家の醜聞など一々折を外ず薰陶の材料に用ゐられ候はゞ、女學生通俗の人情に疎といふ譏もさまでにはあらざる可かと被存候。此外近來發明、漸々會得の途に進み候一の眞理は

　人生の九分九厘は俗事より成立つ

といふことに之有候。仕來り、習慣と申ものは大概

夥多の人が多年經驗し來りし結果にして、或場合に於ては容易ならぬ熟考を經て傳り來りしもの也といふとは始めて家を持たる女學生の思ひ當らぬ處にて、妾が新たに組立つるホームこそは新理想を基とす可し、新鑄型に推出さゞる可らずとは頻りに其腦裡に増長、跋扈する熱望に御座候。これより改良策を案ずると共に先づ、第一着に舊き習わせを毀ち、固有の法式を無みし候ものから、家の者は勿論、朋友親戚までに非常なる不滿を懐かしむる樣相成候と往々見うくる例めしに御座候。舊き風俗の面白からざる原因は重、外形の法式已を存して、精神の失せたる事實に有之候間、在しかたちは其儘に廢せず、たゞ無かる可らざる要素を之に加へ候はゞ甚だ穩當にして成効し易き已か、改良の精神にも適ひ候はんかと存候。固より從來の仕來りには全然改む可き廉も尠からず有之候故、採り除けはなしとせず候へども、

誠實を加へよ、儀式は省ぶく可らず

とは一通り無事の規則と考へ候。例へば新年の挨拶、寒暑の訪問にても、心の誠實を擔ひ候ものとせば、

値は僅か二錢にして無量の贈物

と相成候はん。其他重の内の遣りとり、子供老人を悦ばす可き手土産など決して無益の煩勞ならずとのとなどは極く近ごろ悟りたる眞理に御座候。

(未完)

隨感

○吁、われ退ぞきたる乎

心の眼を自づと閉ぢ、中身の氣力なにとなく衰ろへ、窓外をながめて天地面白からず、傍らに顧りみて默して懷ひさびしきの折、試みに『正義』と云へるものに對つて面するに、其光いつになく燦やかならず。又、試みに『大事業』と云へる觀念に向つて對するに、其刺激頓に鈍れるが如し。此に於てか、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

濛々として自から暗くし、愀々として心いよ〳〵憂ふ。吁、われ衰ろへたる乎、吁、われ退ぞきたる乎と。懊悩として、おもひ益々よろしからず。落ちていよ〳〵失望の淵に沈まんとすらん。語ばを寄す同念の友。もし時あつて偶たま此般の境界に入らば、當に白馬に跨がつて荒原を快馳し、また一舟を放つて長く碧浪に流し、もしくは杖を携つて行く〳〵朗吟し、寂むろに、心身を姿なひ、傍に胸襟をくつろげ、而して佇ち歸つて蒼然古への聖賢の書を繙とくべし。如此くんば、義人、正者、大聖、預言者、躍如として活躍し、直指して人世の大義務を示さんとす。此に於りて感奮興起せざること恐らくは無し。もし夫れ宗教深信の味わひを知れりしものは、修養の方、更に易々たり。何んぞ、夙朝深夜、心を凝らして[illegible]り、精を盡して天地の靈に接することをせざる。努力一番、進めて宗教を勵行し、試みに數日傾ひを一洗して特に信仰を[illegible]持することを為さず、何ぞ吾が信仰復活の實か[illegible]らずやトらん。

○今年もすでに花は散りたり

今年もすでに花は散りたり、片々たる落英そも何處にか失せし。忽然、春は半死の枝頭に宿りて、天地の美くしき花と云ふもの露はれたり。久しく之を望みて、蕾半開にほゝえむこと長く、后に散るを恨んで影を惜しむこと久しきに、一朝、全姿を見し、一夜、忽まち失せぬ。其紅顔の多く見らるゝを嫌らひてか、其の紫衣の長くひるがへるを恥ろひてか。天津風、くもの通ひ路を吹とざすことなく、乙女の姿しばしも止めず。[illegible]の[illegible]、竹の園生にだに安んぜず、遂に元に還らんとするや。花よ、花よ。今にしてそも何處にか隱れたる。青葉、その后に繼ぎ、簡質なることのみ漸やく兆すといへども、遂に復た汝がやさしき姿を見ず。汝、天地の間に花あることを示さんとして來り、温たかに吾等を喜こばしめて忽まち亦消ゆ。汝、[illegible]に吾等をして小花にのみ執着せしめざらんとする乎。惟んみれば、法界に花あり、法華と云ふ。天堂に花あり、長久の花と云ふ。ひそかに之を望みて、心に其姿を懷へば、其情、不斷、温和にして、こゝに絶へざるの春あり、こゝに死せざるの花あることを覺る。則はち、花を失つて花を得たり、これ汝がかたみなる乎。花よ、花よ。われ汝に感謝す。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

史傳

赤十字社とクララ、バートン（其二）

○救助の手つねに備はる

クララ、バートン女史が、親から手を下して廣く赤十字の看護を施こしたるは、合衆國内にては、千八百八十二年（明治十五年）ミシシッピー河大洪水の折を最初とす。當時、赤十字社の會計局には、一千弗の貯金ありしを、女史は之を携さへて瞬速、現場に出張し、手落なく救助に力を盡せしが、四方の仁人之を聞きて、義捐金を寄すると響の聲に應じたらんが如し。女史は、綿密に始末し、細かに節儉して、又の折の后の用に積み立てたるが、果して翌年、オハヨー州に大洪水あり、ルイシアナに大旋風ありしかば、又々手落なく、手をくれなく同樣に救助することを得たりける。

○出でゝ救ふ年々虚歳なし

一千八百八十四年、伊太利の都ゼネバにて万國赤十字社の大會あり。女史は、合衆國政府より遣はされ、ソロモン、セルドンの二氏を隨がへて之に臨む。政府は、此の入用として、特に金三千弗を支出したり。

一千八百八十六年、テキサス州に干潑あり。同年、チャールストンに地震あり。ともに、女史が救助をうけたり。

一千八百八十七年には、合衆國を代表して、バーデン大公爵並に同夫人の宮に罷りこし、同年バーノン山の旋風にて難みたる人々を救助したり。

千八百八十九年五月三十一日、世界を聳ろかしたるヂョンストンの大洪水には、救助の爲め現場に臨みたるものゝ最初の人は、即はち女史なりき。もろ／＼の事にあらゆる救助を施こしたり。此時、赤十字社にて費やしたる救助看護の高四万弗なりし。

○最近最大のはたらき

女史が救助の事業の、最近最大なるは、千八百八十三年（昨年）チャールストンよりサバンナに至る海濱に於ける大津浪

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

に於て、無数の白人及黒奴が大困厄に沈みたるを救ひたるの事にてあり。去年八月二十八日、猛然怒濤恐風一時に推しよせ、海濱の家を倒し、作物を流し、多くの人を殺しぬ。直接、害を蒙むりし人口九千人、間接影響をうけしもの三万乃至三万五千人、其他を合しては總べて七万乃至七万五千人に上りしとぞ。此時、救濟慈善に力を盡せしもの多かる中に、女史が管理、指揮したる赤十字社は、目ざましき働らきを爲し、二万三千九百二十六弗三十六セントの寄附金を得たるを、六千三百余弗を除く外、悉皆使用したり。

○美なる哉赤十字

夫れ、看護は人の情けの標識なり。世々の長き、病魔に侵されて貴身自由ならず、空しく苦吟して寝の上に悶す。此時に當つて、其の傷をつゝみ、其うみを舐め、其痛苦に同情を表するは、豈に天の使の業にあらずや。况んや、兵士、國の爲めに戰に臨み、正邪を劍戟に訴へ、身體を彈丸爆發の央に決す。其の創を冷やし其痛を看せんとする赤十字社の事業は、最とも高明、最とも愛慈のものにあらずや。美なる哉、赤十字。赤きは、人の貞心なり。十字は、大救主の教へなり。人、赤誠をたゝえて、救主の御心を體し、こゝに初めて、人の病に臨み、世の戰に赴く、至深、至仁の情思に切なり。

逸事

○報徳夜學校

傳ふらく、靜岡縣興津の北二里、山深く谷幽かなる所、一小村あり庵原郡庵原村杉山區と云ふ。日暮れて村中人家の點在せる所の丘上を望めば、燈火明滅の間だに青年の囲繞するものあり、之れ青年報徳夜學校と云ふとぞ(四月十六日「日本」紀載)。此校明治九年に創立せらる。特別、甲、乙の三組に分ち、甲組は農業書、乙組には修身書、特別組には生徒各自の望める學科を教ゆ。目下生徒四十六名。青年は日中耕やし耘ぎり、其得たる賃銀の幾分を貯えて報徳貯金をなすとぞ。報徳青年は、此校維持の爲め金八百圓を蓄積して學資となす。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

此校もと片平信明氏と云ふ村の長者によつて建られたり。氏は熱海入浴中、たま〳〵二宮先生の遺著を讀みて感激し、遂に此の發企ありしとぞ。

○素町人元祿武士

近頃ろ世に喧傳するは、福澤先生が、三人の書生に異樣の取扱ひを示して貨殖の志を激勵せしめしの一事なり。三人のうち二人は資産ある家の子なり、一人は何の家産もなき人の子なり。談笑の間に此事實を確かめ、先生ふと奥に入られしが、かねて侍女に言ひつけられけん、白紙盆に美くしく盛りたる菓子は、前の二人にのみ與へられて、后の一人には供えられず。二人はあやしみ一人は極めて不平なりしが、先生其の狀を見て戒しめて曰はく、御身家に一文の身代なし、されば我すら斯く輕蔑して他の産ある人の子に取扱を別にするものを、路上世間の輩が錢なき人をあしらふの程察すべし、御身之を口惜しと思はゞ今より發憤して大ひに貨殖につとむべしと。評するもの、之を聞きて、又もや先生が例の拜金宗をあざける。如斯きは、眞とに是れ大人の氣宇を知らざるものと謂ふべし。胸中万斛の涙なきもの、安くんぞ能く此の眞摯露骨の敎戒を施すことを得ん。今の世に際しては、常凡の士、恒の産なき時は則はち恒の心なし、獨立獨行して所懷を行はんには、家に富なくんばある可らず。先生よく此の大勢と人情の弱點とを知つて、つねに此の般の敎をとく。惜ひ哉聞くもの其矯激の語ばに眩じて其精髓を悟らず。所云る、伎倆を素町人にするとのみを成して腹を元祿武士に固むると能はず。是れ、福澤塾中幾多の誤解者を生ずる所以か。然れども、先生又曰はんとす、余が說を誤解する位ひのものは、知れたるもの也、如此き輩は矢張り金を作つて金の力にて獨立するの外あらざるべしと。

竹の操　第一枝

河内の國富田林の某より左の傳記を寄せらる。事實の精粗何如は、一つに起草者の責任を信じて左に掲載す。

貴夫人淑女達よ予は女學雜誌の史傳欄内を借りて明治婦人塲裡に在て燦煥さして新光輝を放つ可き賢女を紹介す可し予は本篇を草するに當り關係の諸氏を各處に訪ひ奔走跳躍の末漸く事實を確め得たるものなれば其文章詞句の拙

劣を措て美事を表彰するに吝ならざるに愛で丶再三熟讀の栄を賜はゞ幸甚なり

従六位　枕岳哲士

青柳の河内國石川郡喜志村に住みて美具久留御魂神社の神職を爲す人に青谷龜壽郎氏とよん云へるありけり其先贈正一位楠廷尉正成公に出で丶天質義に勇み助弱挫強の男意地に富み頗る櫻華州男子の本色を備へしものにて予は常に親しく相往來し刎刑の交を爲せりし

今は早や昔し仝氏に才徳兼備の令夫人在りけり竹翠女史賤子と云ふ此女史こそ本篇の主人公にして芙蓉州女子の高譽を保ちし賢女なりけり今其事實を述ぶるに先つて先づ女史の略履歴を序しなん

花も實もあるてふ長州武士に秋葉縣左衛門てふありけり女史は其養子なれども實は當時に時めき給ふ某伯爵の令孃なりけり其原因を云はなん

それは宮に仕へ奉りし松原[illegible]にて[illegible]宮家武士の娘松原のい[illegible]命婦職の世態につれて[illegible]となりやん[illegible]事情の在りて[illegible]の都の鴨川岸に花袋取る身とはなりぬ天の賦せる容色の美わしければ袖を引く大宮人のいと多きが中に最と愛で給ひしは某伯爵にて在りけり

最と淺からぬをん情の嬉しけれとて忠誠に仕へ奉りければ二位の御殿も愛着の細に引かされ給ひて子の日の小松に深あらねど根引きして東に俱なわせ給ひけり右の手にも美わし花を持たせ給ひて殿にはいとゞなふみけしき見ければも北の方の御覺めでたからず貴きも賤しきもをしなべてある慣ひ悋氣の炎に身を焼かせ給ひぬ

如斯こゝろ内に淀の川瀬の水ならで深きをん情の種をしも宿しけり賤子孃は明治八年三月七日を以て東京なる伯爵の別莊に生れぬ生れて天の爲せる妙瓊瑕の如く襁褓の中己に端麗清妙父凡庸の嬰とは見へざりけり

ます〱に北の方には穩ならせ給はねば如何にやしつらんと胸を痛め給ふ折柄友人の秋葉縣左衛門夫妻に亡せし以來空閨に在住を嘆ち居る由を聞召し愛しくはあれども玉の如き令孃を授へしあい女を秋葉家に嫁せしめられき實に十一年一月

押し照るや浪花商津の空に太平の夢野に除外に逃れて花月を友とし居るは縣左衛門氏が維新後の状態なりけり當時長州人士は皆要路に立ちて錚々たる人々の間散に身を寄するものは

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

蓋し氏は多病にして隱逸の念ありしなり

賤しき浮川竹に笑を賣りし身にも似で愼み深く仕へければ妹脊の間も睦深く琴瑟相和して可憐の少女を掌裡の珠と愛でられしが同年十二月義弟眞楓てふぞ生れぬ

見越しの松は翠深めて奥床しく櫺子窓の風鈴に樂しき南風のそよぎ來て只管に二子の生ひ先を樂まれしも自由ならぬは浮世なりけり定まれる世は詮術もなや十三年の六月に藤左衛門氏死し翌十四年の六月に未亡人又身まかりぬあはれをさなき二人の兒は便りなき世に殘りけり伯爵より岡部みつてふ老女を附けられぬ時に女史は六年三ヶ月秋草の萎れ行くに引かへて天眞の香蕾蘚姸として清緻潔麗花雪の山に月霽るるに似たり

論說

嬰兒の精神及び其發達（第一）

竹內楠三

吾人が品性の基礎をつくるものは重に家庭にあり、概して云へば、高貴なる家庭に育ちし人は假ひ不幸にして卑賤なる境遇に落つるも自ら高尙なる氣風を存し、又た卑しき家庭に成長せし人は假ひ僥倖にして高貴の身分となるも幼時の性質を全く一變するは更に難く、思はず野卑なる心情を表出するとあるなり、斯る事實は世人の通常目擊するところなるべし。然るに家庭にありて幼兒の心情を導き高貴なる品性の基礎をつくる重任を有するものは母にあらずして誰ぞ。されば人の母たるもの嬰兒の精神は如何なる性質のものなるや、又たその發達する形狀は如何なるの問題に心を注ぎ、一應之れを理會し置かざるべからず。假ひ深くその子女を愛し高貴なる品性を有する人たらしめんとの欲望如何に切なるも、若し嬰兒の精神に關する知識なからんか、その願望に反する結果を見ざるを得ず。之れ屢々吾人の耳目に觸るゝ事實にして眞に慨嘆措く能はざるところなり。故に之れが參考の一助にもと思ひ、嬰兒の精神に關する事柄を少しく記述せんと欲す。

一　精神の單原

抑も精神とは如何なるものなるやを論ずるは實に困難なる問題にして一般の人に左程興味なき理論に涉らざるを得ず、故に今之れを論ずるは余の目的にあらずと雖ども精神の發達を述べんとするには初めに少しく之れを記し置かざるべからずされば極めて簡單に精神の單原を論じ然るのち其の發達の形狀に及ばんとす。

通常世人は精神の發動に種々なる名稱を附し之れを彙類して或は知と云ひ或は情と云ひ或は意と云ふ。されど是等は各別の能力にあらず又た三角形の三邊の如く心躰の三方面にもあらず。恰かも古代の哲學者が万物の原素を地水火風の四大元となしたる如く甚だ粗雜なる觀念にして、實際斯くの如きも

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

のにあらざるなり。抑も複雜なる吾人の心情を分解してその極に達するか或は下等動物又たは初生兒が有する精神の萠芽を精細に觀察するときは單一なる感應力あるのみ。之れ世人が認めて知となし情となし意となすところの複雜なる心情を組み立つる單原或は基本たるなり。而して此感應力の發動に正面的と反面的との二樣あり、之れ識に現はるときは快と不快の感情となるなり。此正面的と反面的との二樣は感應力の發動に固有なるものと云ふべし。然るに此感應力は如何にして發生するやと云ふに二種の事情の共働によりて發生するものとす。二種の事情とは何ぞや、一は感應力となりて發動すべきエ子ルギーを蓄藏する神經組織にして、他の一は之れが發動を導く外來の刺戟なり。此等の二事情互に共働して感應力と稱する一種の力を發動せしむ。伶ひ動物の組織中に多量のエ子ルギーを蓄積するも外界より來る刺戟なからんか、感應力は起らざるなり。又た伶ひ外界に種々の刺戟あるも組織中のエ子ルギー盡くるときは感應力起らざるなり。之れ勞疲したるとき休息睡眠を要する所以なり。

吾人を刺戟する外界の力は悉く同樣なるものにあらず、其方法を異にし又たその數を異にするを以て之れに因りて發動する感應力に質の相異を生じ、色、音響、香味などの別を現はすものなり。又た同一の方法により刺戟さるゝも、その量異なるときは發生したる感應力の量に差異を生ずるものにて、感應の弱きことあり強きこともあるは人の能く知るところなり。然り而して斯の如くその質を異にし又たその量を異にする正面的或は反面的の感應力發動して或は結合し或は分離するを以て複雜なる吾人の精神現象を生ず。此複雜極りなき活動の有樣を認めて種々の名稱を附するなり。

無識的感應力と識的感應力――感應力は凡て識を有するものにあらず。その最も單一なるものに至りては無識的に發動するものなり。胎兒或は初生兒の感應は凡て斯の如きものなるべし。而して斯る單一なる感應力は獨り高等動物に於て發動するのみにあらず又た最簡單なる「アミーバ」の如き單細胞の生物に於ても現はる又た或學者の說によれば一種類の植物が刺戟に反動するも單一なる感應力ありて然かなすものゝ如しされば簡單なる心情は最も單一なる生物に於てその收縮組織に附着して發生するものと謂はざるべからず。而して識は感應力の進化するに從ひて現はるものにして一種の力にあらず又た感應力を離れて別に存するものにあらず。感應力の結合が現はす一形狀に過ぎざるのみ。凡て事物の發生するは繼續的なりとは科學者の一般に唱ふるところなり。識の發生も亦た繼續的にして突然起るものにあらざれば識と無識との境を判然區別する能はず唯だその兩極端を比較して識と云ひ無識と云ふのみ。之れ恰も明と云ひ暗と云ふが如し「エーテル」の波動僅少なるときは吾人が所謂暗黑なり、その波動增加するときは漸次明となるなり。無識的感應が漸々增加して識的感應となるも亦た斯の如し。されば現實なる力は感應にして識は之れに附屬する現象たるなり。然り而して吾人が醒覺の狀態にあるときは明なる識的感應のみ活動するものゝ如く思ふと雖ども決して實際然るものにあらず。其裏面には多くの無識的感應の活動ありて絕えず吾人の思想行爲に重大なる關係を及ぼすものなり。吾人が思想行爲の基礎は無識的感應にありと云ふも不可なきものゝ如し。

以上述ぶるが如き感應力が如何にして思想となり或は情緖となり或は自制力となるや杯の如き問題は余が玆に詳論する能ざるところなれ共次下に於て嬰兒心情の發達を論ぜば自ら明かなるべし。只だ數簡を以て之れを云はゞ吾人の複雜なる心

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

情は感應力の活動にして、知性とは感應力の結合分離する形狀をいひ意志とは感應力の一が他に打ち勝ち或は筋肉の抵抗に打ち勝つ如き塲合を指していふのみ。

二　胎兒の感應力

雞卵の中に存する胚は感應力を發現せずと雖ども一定の溫度の下に孵化して雛となるときは外界の刺戟に感應する力を有す此力は卵中に於ては如何なる狀態にありしか之れ潛伏力となりて組織中に蓄積せらるゝものなり、されば將來感應となりて發動すべき力の「カパシチー」は既に卵中に存するものなり（プライエル氏）、人類の嬰兒が胎内にありて胎盤より榮養物を吸收し十ヶ月間發育するは潛伏せる感應力を蓄積する時期たるなり、故に此時期に於て母躰より充分に善良なる榮養質を與ふるにあらざれば生后外界の刺戟に對し活潑なる感應力を現はすべき原料を得る能はず、或は感應の遲鈍なる兒童となるか或は僅少なる刺戟に堪ゆる能はざる軟弱なる兒童となるべし、之れ母躰の榮養が兒童の教育に重大なる關係を有する點にして婦人の注意せざるべからざる所なり。

斯の如く胎兒は感應力の原料を蓄積する時期にあるものなりと雖ども全く感應力の發動なきものにあらず、生理學者の觀察によれば第五ヶ月に至れば判然認め得べき運動をなし外界の刺戟に反應するものなり。リエー氏の說によれば第四ヶ月に至れば胎兒の神經系は刺戟に反應するものにて冷手を以て母躰の腹部に觸るゝときは自發的運動をなし又た壓迫するときは之れを脫せんとして運動をなすものなりと云ふ。斯くの如く運動を始むると共に胎兒を繞圍する羊水の抵抗なかるべからず、又た筋肉の收縮は神經の末梢を刺戟して筋肉感起らざるべからず、加之ならず神經系の漸次發達するに伴ひて榮養の感起らざるべからず、又た其他母躰が偶然なる境遇の變化に遇ふときは異樣なる感動を胎兒に與ふるなり。斯くの如き種々なる刺戟は胎兒の柔軟なる神經系を衝動して絕えず無識的感應を發動せしめ心情の萠芽をつくるものとす、リボー氏は云へり「無識的生活の最初の形狀は胎内の生活に於て求めざるべからず胎兒の外感は無覺の狀態にあり又胎兒の普通感覺は羊水の常溫に於ては殆ど不明なりと雖ども其頭腦は常に知覺意志の作用をなす是胎内生活の終期に於ける胎兒の運動によりて證せらるゝが如し」と、又クッスマウル氏は一歩進みて嬰兒は生前に於ても接觸或は飢渴の感覺を經驗して一種の性質を得る者にて假ひ不完全なりとは云へ嬰兒の知識は既に此時期に於てはじまる者となせり。然りと雖共多くの生理學者がいふ如く胎兒の運動は全く自發的反射的に起る者の如く見ゆれば之によりてリボー氏或はクッスマウル氏の如く斷定するは少しく臆斷の感なき能はずと雖共、胎兒が無識的感應を發現するは事實たるなり。而して此等の無識的感應は生后に於て發達すべき精神と關係なき者と云ふ能はざるなり。

胎内教育とて嬰兒が胎内にあるとき母の精神上の感化を受くるものゝ如く思ふ人ありと雖ども之れ一の空想たるのみ。胎兒の神經系が發達する時期にありては兒躰は羊水と稱する液躰中にあるものにて母體と接觸するところは臍帶によりて連續する胎盤あるのみ。而して胎兒の血液は薄き膜を隔てゝ母躰の血液と接し榮養質は此薄膜より透入し又た瓦斯の交換をなす。されば母躰より直接に受くるものは血液中に含める榮養質あるのみなり。故に母の精神が胎兒の精神に感化を及ぼす如きことはあるべき理なし。然りと雖ども母躰に於ける精神上の激變は消化血行などに著しく影響するものなれば隨て胎兒が受くる榮養に變化なき能はざるものなり。母躰の狀態と胎兒と相關係するところは唯だ此點に他ならざるなり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

女流文學

明治女學校普通科卒業生總代として卒業式場にて朗讀せる者。

藤島雪子

東海の天に頬笑みたてる佳人あり名を富士とよぶ雪をもて衣とし雲をもて帯とし波しづかなるあしたさしのぼる日かげに玉の顔ばせをにほはせ風すさぶ夕べ狭霧の間に淡き衣をおほふうべなるかな詩人の此佳人を慕ひ此いたゞきにしもやどりを定めましつること。

世界のひろき中には聳えたてるヒマラヤの山もあるべし岩根こゝしきアルプスの嶺もあるべしさはあれどわが日本の不二のねのごと其かたち優に其すがた美なる山しいづこにかあらむたゞし此佳人はしもわが國ぶりの優美なる女流文學を代表せるものか優美なる女は悲哀の情深き女に宿りてあるはあつき涙となりあるはあたゝけき血となり其涙川血汐流れながれて今にいたれり今より後千たびの春秋千たびうつりかはるともつきせざるは其流ならむ。

嵐さけび波さかまく相摸のわた中に日本武の尊の妃弟橘姫の命はせの君のみ命に代はりせの君のみ船のしづまんとするを救はんとて波の上に八重の疊をしきてさねさしさかむの小野とうたひましゝはこれ優美にして悲哀なるやまとをみなの心をうたへる女流のはじめて世にあらはれし時といひつべからむそれより後くものおこるに君を待し衣通姫春秋のあはれをことわりし額田の王家なる人を思ひし坂上の郎女さては但馬の王大伯の皇女粟射の女王石川郎女笠女郎松浦娘子をはじめ船のまよひを誰かせりみんと實めのよその守りにいでたつ夫を思へる防人の妻もありたり平安の朝にいたりて小野の小町は其世の末にこそ身をうき草の根をたえてさそふ水にもまかせんと思ひつれ紀の朝臣の撰はれし六人の歌のひじりの中に寄せられ伊勢の御はあすか川瀬にもあらぬ宿も淵にかはりゆくを嘆きしかども知らぬ名を萬世に傳へぬしかして[illegible]宮大臣の北にかざしゝ女學の花は一條帝の御代にしもひらきみちぬあはれ女性をあはれぶ心深き詩人は同じ時にしもあまたの名媛をいだし給へりけり槇の板戸をたゝく水鷄にも

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

はかられず女の徳女の操をまもりわが子をよくおぼしたてさて源氏五十四帖に女子の心のおくかをしもゑがきつくされし紫のおもと巧にこまやかなる筆に世のさまをうつしいだせる清少の君のうへはことさらにいはでも有なむ赤染和泉馬内侍さては母の名をおとさずさ衣を殘し、大貳親に先だつ道をしらねばと重き病の床にも母をおもひし小式部なと歌に文にとり〳〵に名をのこかりきかく一時にすぐれし人の出でしはいかなる故ぞとおしはかるにそはこの人々中宮定子上東門院大齋院とにわかれつかへておのも〳〵もきしろひつとめたるためにかく發達せしなるべくおぼゆれば此時代はしも女流文學の競爭期ともいひつべからむ後冷泉帝の御代にしも菅原孝標ぬしの女あり菅家の流をうけて幼きより學を好み等身の藥師佛をつくりて物語みせてよと祈り又ひるはひぐらし夜は目のさめたらむ限つとめしかひによはのねざめみつの濱松朝くらなとつくりしことあはれなる生涯を寫しゝ自傳に悉しく更科の月よりもげにかゝやけり世は院中政治となり保元平治の亂いできて女流文學の花もしばしが程冬ごもりゐしかど後鳥羽帝の御代入島の波もしづまりたる春べにあひて再花さきいでぬそは式子內親王待宵の小侍從若艸の宮內卿沖の石のさぬき俊成卿の女なと一時にいでゝこの時代は和歌發達の期といひつべし少しおくれて阿佛尼あり子を思ひ道をおもふ心のやみにわくがれいでし十六夜日記極樂寺の松風に都の內侍をおもひし庭のをしへうたの道の奥かを二人の子につたへし夜の鶴とり〳〵にそをよみて誰か泪に袖をかさゝらむ南北の爭亂仁のみだれに女流文學の秋な來りて紅葉のにしきも色うすく名きこえたる人もなかりしを元祿の始つ方春風春水一時に來れるがごとき文學復興の時にあたりて荒木田麗女ありかなの歴史のかけたるをおぎなひて月のゆくへをものしまた池のもくづをかきつき近ちかき世にいたりては風ふかぬ日はさびしと世を思ひすてし尼やんごとなきわたりより桂子の名を給はりし刀自國をおもふ心あつくあまたの勤王家を家にかくし置たる爲とらはれ人となりてひめ島の波に袖をぬらし、望東女などありきこの外にも空ゆく月と仰がれますみのかゝみとたゝへられし人あげてかぞへがたくなん西の國々さてはこまもろこしにおりいだせるあやもうるはしかるべけれどわがやまとにしきにたちまされるはありがたかるべくや。

詩神不士の嶺に天くだりましてこゝに三千載吉野山の櫻春ごとに匂ひ琵琶湖の月秋ごとにかげさやかなり花は萬春に色相同じけれどみる人は歳々にひとしからず月は千秋に光かはらざれどむかふ人は年々に同じからずまどへる心もておもひみれば一生はあだかも死の淵の上にかけたる長き橋をわたりゆくかごとしあるは三十歩あるは五十歩長きも百歩にみたずしておもはずにふみそこなひておちはた自から死の淵に身を投じて限なき水泡の一つにきえゆくなりことにあはれにはかなきは女の生涯なりけりよにふるながめに唯いたづらにうつろへる花の色をかこちてのみあらむも何にかはせむかしらにおく霜に一時の秋をくねるもいかにかはせむ心なき賤山かつも花のもとにはいこふもいとこそきけ花なくは女の林もあれぬべく心の泉もかれぬべし美女は文學の花なり此花にしてさかすあらは人の心いかばかりあれまさるらむ文學は家のうちにもみてり時は炊く煙のたなびく中にもこもれりまつ家を治め女の徳を守り女の道をふみ女のつとめをつくしてさて女子の心をよすべきは文學の園生なるかな女子のたをりてかざすべきはとこはにしをれすちらぬ文學の花なるかな。

女學

西洋風女子教育（上）

○學校組織は何故に必要なる乎

維新の革命と共に、俄然國風を一變し、万事を外國に型どりたり。之を所云る歐化主義となす。抑て、歐化主義の一功一過を褒貶し、今更ら其死骨に鞭うつて東門の下に短謗を侮ゆるは愚なり。一時は、翕然たる歐化主義とならざる可らざるの大勢ありし也。此の大勢に乘つて歐化の事業を遂げ、固陋因循を顚倒して、積弊の頑夢を擢破せしは、亦是れ一と時の必要なり、毫も失策にはあらず。たゞ夫れ此の一時の權道を常恒の道と心得、いつまでも、何事にも、たゞ歐化摸倣せんとするを以て大謬誤なりとは云ふ也。

維新の大勢掃の如くなりしかば、万事の發達の順序を、忽然錯亂せしめ、種より二葉、二葉より莖、莖より幹と申す如

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

き正當着々の順序を混雜したり。元來、進化の道ゆきにも、折々は飛越ゆべき谷あり、必らずしも蛙が坂を登る如き躰裁のみにもあらざれども、先以て至當の順序は、一より二、二より三、三より四と登りゆくべき筈のもの也。然るに、維新の革命は、此の着實なる順序を破り、万事の進歩を大錯雜の渦の波の中に投じたり。

此に於てか、封建政國より、立憲政國に一と飛びに飛ばんとして、万事万物進歩發達の順序を大亂しに亂したり。先づ見よ、百姓は、手工園藝的に發達せし順序を忘れ、忽然、米國の器械平原的の農業にうつらんとし、井上伯の大農策などもあり。商人は、丁稚番頭主從的に發達せし順序を忘れ、忽然、外國の會社株主共同的の商業にうつらんとし、茲に頭取幾百圓、社員幾千圓などを貪ぼる會社なるもの續々起りたり。而して、此等の商人、此等の百姓は大抵失敗せしとを知るべし。

政躰の組織、官署の經綸、家屋の結構、室家の調子など皆な此の誤まりを襲ぎ、何れも格外の變遷を大早計に仕遂げて今更ら當惑至極の輩ら少なからざるとなるが、彼の學校組織なるものも亦たその一つにてありける。當世の人、學校の必要を先天的に定まりしものの如く感ずれども、抑そも學校組織なるものは、維新后自然必要の發達に應じて新たに出來しものにあらず、必竟文部省が歐化主義を執りしによつて、忽然不順序に湧き出し西洋風の一教育法にてある也。元來、學校組織の教育法は、普通の智識を遍要し、普通の智識ある教師數多く、社會の實力調子好尚餘程圓滿となりたる時代に至つて初めて起るもの也。我國現代の如き貧乏にして多忙なる創業時代には、尚ほ早すぎる所ろの教育組織にてある也。

左らば、心ある教育者、此道理に氣付き乍ら、何故矢張り學校を開くやと云ふに、普通教育の一つの要道は、時世に適應せしむるにあるとゆへ、學風の大勢、間違ひながらにも、かゝる學校的教育に傾むきし時には、已むとを得ず幾分其の流行に隨がひ、誤まりと知りつゝ其教育法の調子に合はせざるを得ざると也、之を達識者の時世に從がふ涙とは云ふ。左れど、達識者は、悉とく時世に屈服するにあらず、同時に、世の眞の必要に應ずるとを得べき活智を其書生に

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

得せしめ、又時世の流行を正しきに導びかんが爲めに、逆流の運動を勵行するもの也。

學校組織は、かゝる譯合にて今の日本に出で來しものと覺らんこと、先づ以て肝要なり。此の覺りなき時は、今に方つての教育法を考ふるときに、一處の死肉固く存して妙理靈覺の徹底せざることをおぼゆ。一般の學校すでに然り。女學校に於ては、殊に然りとす。今の女學校なるものは、取りわけ西洋の教育法を其まゝに模倣したるもの也。

彼の保守輩、何んぞ天下の大事を談らふに足らん。二十世紀の曙に、日の本の因循を、全乾坤の上にひらめかさんとす。安くんぞ卑屈退守の氣象にして可ならんや。西洋[illegible]にあらず、歐化は墮落にあらず、サッサと善き方に就き、善き事を適用すべし、亦何んぞ拙劣に拘はるべけんや。然れど、事情錯雜なり、必要多なり、進歩不定なるの先天的包圍を辨まへずして、たゞ〳〵外形の皮相に做はんとするは、淺見短迂の徒が爲すゝ也。[illegible]の中庸適道を知るにあらずば、まづ〳〵保守の方、安心ならん。[illegible]適用法は、世の先覺が指し示すべきもの也。

文藝

ハムレット曲中のヲフヘリアを論ず（續）

笠雪

評者は次に、

ハムレットの如き壯大なる精神に對して、其の情を全く占有するが如き才能は、ヲフエリヤに於て、一も存するなしと、云ひぬ。此の如く云へ、此の如く論ずる評者と、我所見を異にするは頗ぶるわが厭ふ所なれども、如何せん、我はしかおもはざる也。我は退いて、ヲフエリヤに對するハムレットの情は深く且實なるものにして、確かに、ハムレットの如き男子がヲフエリヤの如き女性に對して當然感ず可き戀の情なりと云はん。而も少しく其理由を述べん。

彼の聖教徒が、オリムピヤの總ての權威に關まるゝサヨーブの神を表はさんとするや、彼等は神を鷲の背に座せしめ、電光を以て彼を裝ひぬ。然れども我が聖經に於て、萬能の主が

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

其の榮光に於て來るを畫くや。彼は天使の翼に座し、其記標は鳩なり。此の如く、哲學が信仰と相携へるに至るまでには、決して夢想だもする能はざりし深き神秘を人心に現はしたる我幸なる宗敎は、暗世に於て力の表現に與へたる崇敬の念を、純潔と無罪との記標に與ふべきを吾人に敎ゆ。故に我れは、ハムレットの大なる智力廣き且つ雄飛徹底する天才は、其の壯大の度を減ぜずして、優れたる天性ある者が、完全なると仝時に、自ら其を覺らざる善良の性を稽査するの、總て深き快樂を以て、ヲフエリヤの優しき處女の無罪の上に凭りて休める者として表はすを得可き者なるを信ずるなり。ハムレットがヲフエリヤを此の如き慈心を以て遇せし事、即ち動作若くは情よりは一層多く沈思と、感能とを持てる天性に屬する如き、いと熾烈なる戀を以て公子がヲフエリヤを慕ひし事實は、常にハムレットの曲を讀む時毎に起る、我感情及び確信なり。

ハムレットの心が狂せしや、あらずやは、今日批評家、哲學者、及び醫師間の一疑點なり。我思ふに、彼は責任ある人間たるを得ざるほどの憐む可き悲境に沈淪するまでには混亂せざりしなり。寧ろ彼の心は、其位置の恐るべきによりて、其平均の場所より搖り動かされ、且迷はされしのみ。而して、彼の周密、過敏なる智力、彼の強き想像力及び沈鬱の傾向が、其の恐をば過大にすると仝時に、其を堪へ忍ぶか、又は其と戰ひ勝つかの兩力をも合せて彼より取り去りぬ。此所に至りて我は彼をば戀人として、即ちヲフエリヤが最初彼を見し如くには見るを得ざるなり。彼が切に其戀を少女に語りしは、此戲曲の開かるゝ前、即ち彼の父の幽魂が現世に現はれざりし時なりき、されど、今彼は直ちに困難、昏迷、痛苦、及び恐怖の渦中に陷りぬ。悔むことなく彼は總ての恐れを忍びぬ、罪なく總ての恥辱を忍びぬ。彼は惡む可き罪の復讎を命ぜられぬ、されど、此の復讎は彼の天性の最も恐れ忌む所なり。彼は今は自らと爭ひ始めぬ。彼の奇異なる鬼影は、根底より彼の精神を攪亂したり。彼の威嚴ある鬼影が、其の苦惱の場所より、彼の心の達し得ざる志想を以て彼を驚かさんとて、悲みながら來る時に當りては、其他の万物、あらゆる興味も、希望も、愛情も、盡く皆無用の者の如く見ゆるなり。然らば、ヲフエリヤに對する彼が戀は、彼が其の心及び腦裏より全く

抹し去らんと深く誓ひし、彼の些少にして愚なる記録の内に列せられしならん。彼は己れの恐る可き運命と、少女の運命とを連結するに忍びざりき。彼は少女と婚するを得ず、彼は己れの生活及び目的の全潮流を變ぜしめしが如き、恐る可き勢力をば、オフエリヤの如き、若く、温和にして且おどけなき少女に知らしむるに忍びざりき。然れども其の狂亂に於てや、彼は其のなす可き悲しき働きの境を超へぬ。彼は、恰も、重大なる事件に從事して、其の懐に隠れんとする雛鳥をば我知らず投げ殺せしといふアレオパガスの判官の如し。

ハムレット曲中第三套第一齣に於て、彼がオフエリヤを辱かしめ自らをも罵るに當りてや、オフエリヤは甚だ僅の語を出しぬ。其所には少女が公子の烈しき粗暴なる言詞に答ゆる只二の短き文章あるのみ即ち——

Hamlet

I did love you once.

Ophelia

Indeed, my lord, you made me believe so.

Hamlet

You should not have believed me; for virtue Cannot so inoculate our old stock, but we shall relish of it. I loved you not.

Ophelia

I was the more deceived.

曾てミドン女史がハムレットの曲の朗讀を聞きし人は、此の二短句の内には、深き意と、戀と、悲哀と、絶望との含まることを忘れざるべし。此の二句並に後の獨白に於ての

And I of ladies most deject and wretched,

That suck'd the honey of his music vows,

の句は、みづから及び其の感情に付いて、少女が言及びし只一の例なり。而して以上の句は、オフエリヤみづからは悟らずと雖も、其の句は表裏を含み、其の措辞は悲哀の爲めに破るゝ心の重荷を表はすものなり。オフエリヤはハムレットを狂なりと信じぬ。少女が總て其の希望と願とを以て其の若き心をかけし場所に於て、彼の女は嫌はれぬ。彼は捨てられぬ。彼は辱かしめられぬ。其の父は我戀人の瘋狂の發作に於て、其の手に殺されしと思はる。彼の女は自ら測り難き網羅の内に縛はれて、逃れ出ん様もなし、嗚呼此の結果は避け難き災に非ずして其の何ぞや。

少女が狂氣に付ては、我いま何をか云ひ得ん。あゝ、全く留

みなく破られし、いかに哀なる、いかに驚く可き、處女心の有様ならずや。今は恢復の望も絶へぬ、今は治療の術も遠し。世には激情の狂はあるべし、打續きたる烈しき志想の爲めに起りたる狂氣はあるべし、熱したる神經の發狂は多かるべし。されどヲフエリヤの狂氣は之れと異なり、之は理性の停止にあらずして全き破却なり、之は醫師の善く知る如く、精神の恐るべき激動の後に、往々次いで起る全き衰弱なり。コンスタンスは狂亂、リヤーは狂氣にして、ヲフエリヤは癲狂なり。今や小女が優しき心は寸斷せしまゝに吾人の眼前にあり、我は將に面を蓋はんとするなり、嗚呼實に哀れむべきの限りならずや。其の烈しくさまよふ想像、其の目的なき破格の音韻、其目的なく原因なく快活より悲哀へ速に移り行くこと、及び乳母が嘗て其幼時に少女を眠せんとて歌ひしならんと思はるゝ俗謠を歌ふ事等は、吾人が之に驚くを忘れて、只ひたすらに涙を濺ぐのみなるばかりに、人生の眞を得たる者なり。而して、かゝる悲慘の有様をも、吾人が考ふるに堪るばかりに和ぐるは、獨り沙翁の技倆にのみ屬す。

(四一二) Thought and affliction, passion, hell itself,
She turns to favour and to prettiness.

其の狂氣中に、小女が、前の羞恥の沈默に反して、空なる讒謗を出し、前の温柔なる處女の行狀に反して、藁を蹴るが如き性急なる燥狂をなし、其の理性の確かなる日には、其の口に上すだも恥ぢし事を云ひ又は歌ふ事は、決して不穩當なるに非ずして、反つて一層自然の働を明にする者なり。之は吾人が醫師より聞く如く、此の種類の癲狂の一徴候なり。我自ら、ヲフエリヤの性に似たる性格ありて、仝じ原因より其の病を得たる小女の一例を記臆す。此の曲の所作は、人間の意志に由りて起されたるに非ずして善も惡も共に陷れて人々を呑み盡くす爲めに堀られたる深淵の如き結局の方へ、激流の如く、曲中のあらゆる人物をば盡く、其の暗憺たる、休息なき進行に於て共に送りながら、吾人の面前を拂ひ過ぐるなり。豈に悲慘ならずとせんや。而して此狂公子の性格が、罪を以て罪に報ひ、讖悔の疑念に由りて苦められ、狂氣の爲めに追跡せられしの故を以て、希臘のヲレステスに比せられ、又寧ろ對せられたる如く、我は寫法の正確なる概念と、荒唐なる概念との間の仝じ區別を以て、ヲフエリヤの性格が希臘のイフイゼニアの性格と確しかなる

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

關係を有することを思はずんばあらず。イフイゼニアは、其の爭ふことなき優柔を以て、其の悲むべき溫和と處女の無罪を犧牲に供せざるを得ざるに至りて、罪惡及び只苦痛者として働かざるを得ざる戰とに、己れが運命を結合せしむる、無情なる力の爲めに殺害さるゝの非運に沈めり。此の如く哀れのヲフエリヤは、自身にも又其判斷力にも引別れて、こゝに、神秘なる且無慈悲なる命運の神の前に捧げられたる汚れなき犧牲の如く見ゆ。

夫れ、罪を犯し若くは善をなせし其の本人は往々罰せられもせず又は賞されもせざるに、德行の恩惠は其を受くるに足らざる人にも及ぶ如く、無辜の人々の上に其の害を及ぼすは、罪惡の特質なりとは彼の詩豪ゲーテが警語なり、されど吾人の上には常に天あり。

逸事

○石井十次君を傷つけんとせしもの

本月發行ありし去一月分の岡山孤兒院報告を見るに、一月廿八日の山陽新報に「偽善者石井某、寧ろ詐偽師と云ふも可ならん乎」と題せし社説一篇を掲載せしよしの記事あり。其文中には、パリサイ、サタン、耶蘇の生血を啜るなど、あらゆる忌まはしき文字を列べて、吾が石井君を罵りたり。扨て、別に岡山日報社員の來訪に對して同君が語られたる問答の筆記、岡山日報より轉載せられしを見るに、温厚慈仁、頗ぶる世の偽善者をして憤死せしむるものあり。中に、左の一二の問答あり、

問。足下は不動産を所有し居るや

答。余が所有する不動産は更になく本院に屬する地所にして余の名義となり居るものが備前九蟠地所千百九十坪五合三勺あり別に又發足治名義にして本院に屬する地所百三十一坪五合四勺即ち現に使用し居る此地所なり

問。此外個人的名義若くは此孤兒院境域以外に於ては不動產を所有し居らざるか

答。本院境域以外に在ては一坪の地一軒の家も有せず但し余が本國日向に於て父の所有し居る者父祖傳來の田畑一町余並及び家屋さがあり此は余が家高鍋藩の士分なりしが領主より賜はりしものにて年來士農相兼ぬるの有樣にて生計しつゝあるなり尚又茲に一の注意を煩はすべきものあり余が昨年第三高等中學校醫學部生徒なる管之芳氏を應に訪ひし時足下は郷里に廣漠たる原野を買收したる由その噂に聞ひたるが中川横太郎氏の如き全く斯く信じ居るやに聞き及べり中川氏の斯く信ぜしは先年余が横太郎氏の子息鉄君を預り居る際當時中川氏の牛乳搾取所に雇はれ居りし松井吉二なる人度々余の宅を訪ひしことあり其際の話合にて松井氏は紡績糸買捌の爲めに日向の國に出向き余の本宅に滯留し當時は本宅の隣家に世帶して一家引越し居れるが同氏が歸岡の際中川氏へ原野

所有の件か話せしものならんが此原野なるものは固より余の所有にあらず元来余が産地日向國は随分原野の多き國柄なれば孤兒の將來を慮り斯る土地に於て成長の上農に服せしむるが得策なりと思ひ丸毛直應石黒酒一郎中堀直秋蔦田一郎加藤諾の五氏に相談して一人三拾圓宛の出金を乞ひ日向の國に原野五十餘町か買收したるも此は則ち出金者各自の所有に屬するものにして其名義は此の件に幹旋の勞を執りし岩村直總氏なり而して其登記書類は丸尾直應氏が保存し居れることは事實の證明する所なれば其詳細を當氏にも話したり此事柄が世間の人の口頭に登るとゝなりしものならん

問。足下並に足下の妻子の生活も矢張り孤兒院費用の中より支辨し居れるや

答。余及び余の妻子は醫學校退校後一ヶ年は當地に滯在せる宣教師の手紙補を認むるを以て生活の資に充て其後は米國コンチクチカット州プリマス市ゼー、エム、ロードウエル夫人の厚意により每月金拾圓宛余及び余の妻子生活の資に寄附を受け居り衣類等に至ては國元の両親戚は知己の寄贈を得て今日まで渡世し敢て本院費用の供給は仰がざるなり余が最初の考は醫學校を卒業して開業醫となり傍ら孤兒の養育に從事する積りなりしも孤兒養育の事業は斯く容易に爲し得可らざるを知りて斷然醫師たることを思ひ切り現今の如く爲し居る次第なり

問。昨日の山陽新報紙上に偽善者石井某との記事ありしが足下は之を讀みしや

答。一讀したり

問。一讀して如何に感ぜしが又此記事に関して如何なる考へかある

答。此記事に對しては何の考へをも抱き居らざれども今日孤兒養育の事業の如きは随分種々なる反對を受けるものにて今日諸外國に現存せる立派の孤兒院も皆夫々攻撃を受け困難なる境遇を經過して今日あるものなり我孤兒院に於ても追々擴大に赴くと共に多少の非難攻擊あるべしとは覺悟し居れり故に此記事を讀みし時未だ些細なる此事業にして聊かにても世人の耳目を引くに至りしかを思ひて感謝の外なし又余が最も感ぜしは新約全書路加傳六章二十六節二十七節二十八節「凡て人爾曹を譽めなば爾曹禍なるかな其先祖が偽の預言者に爲したりしも斯くの如し、我れに聽く所の爾曹に告げん其仇を愛し爾曹を惡むものを善し詛ふ者を祝し虐遇者のために祈禱せよ」との教へなり

嗚呼、世の新聞子。一莖の筆を握つて天下の賞罰を掌どる。其職極めて重く、其責め至つて嚴そかなり。何すれぞ輕薄少德にして、抱負自任するとの乏しきや。然りと雖ども、眞人は小徒の得て抑揚し得べきものにあらず、たゞ世上稚々たる未經驗の人が、彼等毒筆者流に誤まられて光明を見るとの晩からんことを憫みとする耳。

◎氣力養成、憐むべきは富人の子

教育時論「如何にして氣力ある國民を養成すべき乎」を論じて、氣力の養成は、意志の養成にあり、意志の養成は意志の作用鍛練にある所以を明らかにし、且つ曰く、

されば、學校に於て、學科を課するは、其主要の目的は、知力の練習に在れども、之と共に亦生徒に、約を教ふる目的を兼ぬる者なり。即知育と意育とを兼ねたる者なり。殊に裁縫の如き、手工の如き學科に至りては、其目的は、寧ろ意育に置かざる可らず。又學校に於て順序を立て、生徒に灑掃の役を取らしめ、若くは庭園の手入を爲さしむるが如きは、最も其意志を養ふ稗益あり。殊に長き道路を歩行して、一定の時間に學校に通學せしむるが如きは、其氣力の養成上必要の方法なれば、父兄は宜しく務めて其兒女をして、歩行して通學するに習はしむべく、學校も亦務めて生徒の車に乘りて往復する風を禁ずべし。高等師範學校附屬學校の生徒の如きは、車に乘りて往復する風、殊に盛なるは、其身分の高き者多きに依る者にて、已むを得ざるに出づれども、彼等の父兄は、之が爲に其子女が學校にて受くる知力の教育よりも、殊に必要なる意志の教育を受くべき、必要の科程を放棄し知らず、識らず、其子を無氣力に陷らさつゝあるを悟らざるなり。世に憐むべき者は、富人の子弟に若くはなし。殊に偽飾の情に富める東京大坂等の

富人の子弟は、最も憐むべきものなり、彼等は幼より其意志を練習すべき大切の機會は悉く奪ひ去られ、無氣力にて成長せり。說き得て旨しと云ふべき哉

時報

◎學校、教育

●岡山山陽女學校　同校は去る三月三十一日を以て第四回卒業證書授與式を行ひ同日は千阪縣知事を始め來賓百餘名もありて盛大なりしと今回の普通科卒業生（七名）は吉岡杉野、三宅さく、丹羽小竹、石川かね、小合丙、石井さよ、の七氏にして手藝科卒業生（一名）は藤原小鶴氏なり同校卒業生は初回より二十九名に達したる由尙ほ同校にては今度高等科を廢して新たに專修科を設け先つ文科を設きて和漢英の文學を專修せしめ三年間にして卒業の規定なりと

●東京女子英語學舘　去る五日同舘講堂に於て第七回卒業證書授與式を擧行せられたり今回の卒業生は渡邊千代、吉田もん、竹林さよ、中村みね、荒木さみ、宮城régí、庄田暖の七氏なりと云ふ

●關西女子高等學校　女子の教育は難かしき事を教ふるも更に益なきのみならす却て害あるは事實に於て認むる故に米國の如き女子教育の盛んなる國に於ても普通女子の教育は人間生活に必用なる課程を重もにし料理裁縫は勿論多くの女學校には洗濯科又は室內取片附掃除法などをも合せ教ふる所あり當地道修町の關西女子高等學校は始め十時三郎望月允武森貞次天野皎の四氏發起し婦人學習舍と稱し專に學齡を過ぎたる婦人の教育をなせしが其後專ら普通女子教育法に改め昨年に至りては其規模を擴張して女子高等女學校と改稱し今回又校則を改正し頃日學士及生徒取締の人をも加へし由にて內外の教員十四名に及べりとぞ（大坂朝日新聞）

●芝區白金町の頌榮女學校　にては去る七日高等女子部及小學男子部の卒業證書授與式を擧行したる由同校は英文漢學等頗る高尙なる學科を設け來りしも昨年末より裁縫科を加へて大に改良する所あり好結果を得たりと云ふ

●跡見女學校　去る九日は同校主花蹊女史が五十四年の誕辰日に相當せるを以て之が祝莚を兼れ同校講堂に於て盛んなる卒業證書授與式を擧行したりと尙當日證書を授與せられたるものは左の六女史なり

四村　菊子　加茂　玉枝子　伊澤　乃子

江林　町子　山崎　丑枝子　小林　茂子

●文相の巡視と中學の驚惶　今般井上文部が教育巡視の途すがら名古屋市に立寄り同地中學教育の模樣を視察せし折同校の教諭文學士松平圓次郎氏をして倫理を講せしめしに蘇戰き聲震へ殆んと講義する事能はざりしを見て之を叱し次に生徒の文章を閲し教師が之に對する褒貶全く教育の目的を失せるを憤り更に寄宿舍を巡視し猥褻の書某生の机上に横はれるを認め平素の監督其の當を得ざるに因るとていたく校長以下の職員を譴責して退きしとぞ右に付き同校職員の驚惶一方ならす斯くある上は各自責を引き辭職するより外なしとて校長心得柴田初次郎氏を始め松平氏其外之に關係の人々は何れも辭表を差出すとに決心せりと云（自由新聞）

●相愛女學校の入佛式　大坂難波別院内に新築せし同校にては去る七日落成式を擧げ翌日入佛式を擧行したりと云ふ當日は法主大谷光尊師僧侶六十餘名を率ゐて之に臨み生徒及び其父兄二百四十餘名參列し其式を執行し了りて式後一般信徒の參拜を許したりと

●教科用圖書の撰定　文部省の規定に因り本月一日より實施すべき各府縣審査會を經て採用許さなりたるもの此程まで主務省に屆けたる中婦人の修身書を見るに末松氏の修身女訓は大坂、福嶋、山梨、德島、石川、島根縣の小學高等科に高田氏の日本女詞は佐賀、鳥取二縣の小學高等科に大槻氏の帝國女子修身鑑は奈良縣に何れも採用されたりと

●各直轄學校教員生徒の現數　文部省其他に於ける各官省所轄學校生徒の現數は最近の調査に因れば左の如しといふ

名稱	教員數		生徒數
帝國大學	百六十七名	内兼務者二名	千三百八十七名
高等師範學校	六十九名	内同　九名	七百四十八名
女子高等師範學校	五十五名	内同　六名	七百八十八名
高等商業學校	四十一名	内同　二名	三百五十九名
第一高等中學校	七十四名	内同　二名	千三百四十名
第二高等中學校	三十七名		五百五十九名
第三高等中學校	五十八名		八百八十九名

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第四高等中學校	四十二名	內同　八名	四百七十二名
第五高等中學校	四十一名		七百三十四名
山口高等中學校	十九名		二百六十名
鹿兒島高等中學造士館	十六名		二百二十九名
東京工業學校	三十二名		二百九十二名
東京美術學校	三十二名	內同　二名	二百十四名
東京盲啞學校	九名		百九名
學習院 華族女學校	百十名		千九十二名
陸軍大學校外十五校	五百四十六名	內同六十九名	二千六十五名
海軍大學校外四校	七十七名		二百名
東京郵便學校外三校	三十五名		四百六名
札幌農學校	二十六名		二百四十四名
合計　四十二校	千四百九十名	內同　百名	一萬二千三百八十七名

◎風紀

●大善寺婚風會　福岡縣三潴郡大善寺村の有志者は村內の弊風を一洗する爲め昨年來種々計畫する所ありしが今度大善寺婚風會なるものを組織し其手段として教育、衛生、風俗に關する談話をなすことに決し去月二十三日宮本尋常校にて發會を開けり、會するもの九十五名、諸氏の演說あり會則を討議して閉會せり其會則は如左

第一條　本會は大善寺婚風會と稱す

第二條　本會は十六歲以上の村民を以て組織し村內の風俗を矯正するを以て目的とす

第三條　本會は第二條の目的を達するため教育衛生實業風俗に關する談話をなすものとす

第四條　本會は各字輪番を以て會場とし毎月第十五日日沒後一時間を經て開會十二時閉會す

第五條　本會は會員の撰擧により左の役員を置く

　會長　副會長　幹事三名　取締十五名　合計一名

第六條　會長は本會を總理し副會長は會長を輔佐し時として會長を代理す

　幹事は諸般の會務を整理す

　取締は各字會員の勤惰を監督す

　　但任期は一ヶ年とし再選するも妨なし

第七條　入會又は退會せんと欲する者は會長に申込べし

第八條　欠席する者は其都度必す口頭を以て取締に屆出べし

第九條　本會は三年毎に村內篤行者の投票を募集し被選者には本會の名義を以て賞狀及び賞品を進與す

第十條　撰擧方法左の如し

一　被選者は三十歲以下の男女子にして左の事項に當るもの

　父母に孝行なる者　兄弟に友愛なる者

　家業に勉勵なる者　節儉を旨とする者

　交際上信義なる者

二　撰擧者は村內各戶主に限る　（福岡新報）

●萩の婦人會　萩本願寺別院主金山佛乘師が組織したる萩婦人會は目下會員四百以上ありて仲々盛況を呈しつゝある由なるが今回左の如き申合をなせしといふ

　萩婦人會申合

本會は佛敎を信じ來世は必ず極樂往生を決する事に付此世には其身〻の職分を盡し流石婦人會の人〻と他よりも見入らるゝ樣にするが主意にて御互に其世話人の內に回りては第一に我身よりして其行を正し惣會員の手本となるやうに心掛度先手近の事より申合の件左の通り

一　朝は早く起き身を清め衣服をとゝのへ夫父母舅姑に朝の挨拶し佛樣へ御禮を致し先祖を拜し夫より仕事に取り掛り夜も同樣に挨拶拜禮すべし

一　一家の內にても目上の人は申迄もなく惣して人の應對何れも氣を和らげ聲を優しく言葉を柔和にすべし子供並に其外下の者等の過失を咎め意見を加ふるも靜やさしくして其人の得心するを主とすべし

一　一家の內目上の人の出入の迎へ送り自身の出入の挨拶等可成丁寧にすべし

一　衣服裁縫飲食の調理は女の本職に付常に心掛け若きものにも敎ふべし

一　病人の扱ひ客人の介抱も亦女の職分に付心を盡し力を致すべし

一　衣服其外惣しての暮し方其家〻の分際より引下げ萬事に心を配り物事儉約にして銘〻の職業を勵み所帶の持切りを肝要と心掛くべし

一　其家〻にて或は所帶の不自由又は內輪親類間にても心に叶はぬ事へ遊るやうの事其他種〻悲歎事あるとも皆前世の因緣と申す事を明らめ地獄の苦は如何あらんと思ひ我心を安く災を福として福とすべし

一　他人に身を許さぬ事女の第一の持方は申迄もなく必ず愼むべし

一　家の盛衰子供の成立は多くは女房の心掛によるものと心得べし

右の通り改て申合せ御互に佛法を弘める御手傳人の內ゆへ人に指をさゝしてはならぬと心掛け身を愼み申べく左すれば佛恩の報謝も御上への忠と申も親への孝と申も是より外なかるべし夫〻相嗜み可申候也　（防長新聞に據る）

●忌まわしき報知二三　岐阜市中央部の有志者は新任警部長高津菜氏が來任早々同市櫻町末廣町の兩所に藝妓席設置許可あらんことを請願する積りなりと

長崎島原港の遊廓にては一個の娼妓學校を設け讀書習字裁縫小笠原諸流和歌茶湯生花の七科を教授することゝなりたる由

大坂新町廓にては本月十二日より婦徳會場に於て春季大會を催ふし種々の所作事を爲す婦徳會とは面白きかな

富山縣射水郡氷見町遊廓は其位置上教育布教の妨げとなり商業上に影響する所も少なからざれば移轉を望むもの多しと

山梨縣甲府市にても遊廓移轉問題又々再燃し來れりと本年は亦是等の問題諸所に起るの徵あり

◎片々

●跡見女史の習字精神に及ぶ　花蹊女史が授くる處の習字法はふく女史が自筆に丹精を凝せるもの今や殆ど一萬餘の多きに達せりといふ

●印度國早婚の禁令　印度國ミソール州(人口凡そ五百万)の政府にては嘗て早婚に關する新法律を發布せしよしなるが同法律によれば大凡八歳以下の女子又は十四歳以下の男子にして結婚し又は之が周旋をなしたる者は罰金及禁錮に處せらるゝ事なり今斯の如き法律の發布せられし原因を探るに同州に於ける婚姻の統計表によれば一昨年度に於て九歳以下の女子にて結婚したるもの一万八千人あり又九十七万千五百人の婦女中四歳以下にて結婚したるもの一万一千百五十七人五歳より九歳までの間に結婚したるもの十八万一千人なり即ち婦女六人中の一人は九歳以下にて結婚せる割合なりと又同州に於ては寡婦の數は殆んど婦女の半數にして其中十四歳以下の寡婦二万三千人ありミソール政府の新法律の如きは之れを文明國の法律に比すれば元より論ずるに足らずと雖も印度國に於て近時早婚の弊を矯正せんとせる與論の一昔白として見る時は又喜ぶべきなり（基督教新聞に據る）

●日本婦人矯風會本部大會　去る三日午前九時より上二番町女子學院内なる假事務所にて本年度第一回の紀念會を執行し役員の改撰事務の報告等あり結果は役員凡て再撰にて左の如くなりしといふ

　會頭矢島揖子、記録書記竹越竹代、通信書記根本さく

因に記す同會の事務所建築費は有志者の寄附になりしもの八百五十六圓五錢にして寄附人數は九十五人なりと

明治廿七年三月中同愛社報告書

○記事

（四日）同愛社創立者故社長一周年紀念會を開けり來會者社員社友役員生徒合し十餘名なりし本日社員前田某有志よりアルコール二瓶寄附（七日）社内紀日祭の會をなせり（十二日）醫員の如く一同大阪へ向け出發午后五時安着（十五日）大阪府同人中谷氏より金拾圓寄附(十六日)神戸松田治郎吉氏來訪午後東京(廿日)在大阪ベーレ氏來訪（廿二日）林氏子婦要用ありて紀州へ向け發せり本日大坂同會長宮崎利吉氏來社せらる（廿一日）鹿兒島加藤新一氏金六十一錢寄附本日同氏松田なる目的を立て本社を退きし本月在大阪阿波松之助氏より宗教教育會合[illegible]藥種科解傳勸業書等七百冊餘寄附せらる又大阪千塚[illegible]氏より[illegible]一冊寄附

○教育

本月上旬は從來の通り毎夜一時間の課讀と夜二時間の學業を授けしが中旬は移轉の爲め學業を休めり下旬よりは毎月左の通り時間割を規定せり朝三時四十分起牀至四時禮拜自四時至六時學業自六時至七時集會喫飯自七時至午后五時實業自午后五時至七時喫飯休息入浴自七時至七時半集會報告七時半消燈就牀

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

貴族院議員子爵福羽美靜先生答
貴族院議員男爵金子有卿君問

禮節問答

洋裝美製全一册
正價金五錢

國家一日モ禮ナカルヘカラス夷狄ニ之クト雖モ亦之アリ其只大小輕重高卑ノ差等アルカ故文野ノ別自ヲ岐ル、アルノミ夫レ然リ然ラハ則チ禮ノコト豈忽諸ニ付スヘケンヤ宜シク其大ナルモノ高尚ナルモノヲ採リテ國家ノ品位ヲ上昇シ以テ文質彬彬ノ世タランコトヲ計ルハ之レ何レノ邦何レノ世ト雖モ最モ努メサルヘカラサルコトナリ顧フニ我カ日本ノ今日王政古ニ復シ文明日々ニ益々進ムノ世百事姑息ノ陋習ヲ蟬脱シ大ニ國威ヲ張ラサルヘカラサルノ時ニ方リ斯ク國家ノ躰面上偉大ノ關係アル所ノ禮節蓋シ今日ノマ、ニテ可ナリトスヘキカ將タ將來ニ向ヒテ何如ナル革新ヲカ望マントスル之レ目下大ニ究ムヘキノ問題ナリトス男爵金子有卿君意ヲ此ニ注カレ一日禮ノ大用ニ就キテ子爵福羽美靜先生ノ意見ヲ問フ先生乃チ平生懷抱スル所ノ一端ヲ以テ答ヘラル即チ其問答ヲ速記セルモノニシテ固ヨリ一場ノ談話事ノ詳悉ナルヲ望ムヘキニアラスト雖モ少カ思フ所アルヲ以テ之ヲ世ニ公ニシ又苟モ志ヲ國家ノ上ニ致スモノ殊ニ身ヲ學校教育ニ委スルモノハ必ス一瞥ノ勞ヲ執リ而シテ更ニ大ニ討究スルノ資トナスアラハ國家ノ爲メ幸甚シト云フヘキナリ

發行所
東京市神田區表神保町一番地角
官報販賣所
八尾新助

日本女學

編輯者 村木經策

新書廣告

書中記する所多くは一度び女學雜誌上に世に公けにしたるものなれども今や時の趨勢に迫まられ更めて梓に上ぼせたるものなり

目錄

各女學校長及び父兄諸君に警告す
女子教育の要旨
教育の流行
眞正の女子教育
英語教育
地方女學校
宣教師派女學校
職業教育
校舎の建築

一册五錢　郵稅二錢

發賣所
女學雜誌社
書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

本校

四月學年終結に付各級へ新入を許す規則所望の人は郵券二銭を封入御申越あれ

明治廿七年四月

東京市麹町區上六番町六番地

明治女學校

西村茂樹先生
南摩綱紀先生 閲
服部富三郎先生著

東洋倫理學

背革洋綴 正價五十錢
全部一册 郵税八錢

熟々東西兩洋ノ諸學ヲ通觀スルニ天象、地文、器械、工藝ノ諸科ハ西洋ヲ以テ優レリトスト雖モ修身倫理ノ道ニ至リテハ東洋ノ學遙カニ西洋ニ勝レリトス然ルニ世ノ歐米ニ心醉セル者一則西洋二則西洋復タ其長短得失ヲ究メズ而シテ東洋ノ學ヲ修ムル者亦訓詁ニ局シ詞章ニ溺レ統合組織シテ以テ一派ノ學術ヲ爲スコト能ハズ悔庵服部先生深ク之ヲ概シ乃チ小學大學中庸ノ三書ニ據リ參スルニ經傳百家ノ書ヲ以テシ父子君臣夫婦長幼朋友ノ倫心術威儀衣服飲食ノ節ヨリ格致誠正修齊治平ノ工夫中和智仁勇費隠ノ道ニ及ヒ之ヲ終ルニ誠ヲ以テス字字精錬句句的確體用表裏完備圓滿シテ容疑ノ餘地無シ其理論上ヨリ五倫ヲ説明シテ其工夫ヲ分析スルガ如キ我國國體ノ風邦ニ冠絶シテ君臣ノ情誼尤モ厚カルベキヲ論スルカ如キ三綱八目ノ精蘊ヲ發揮シテ格致誠正ニ於テ尤モ意ヲ致スカ如キ問答ヲ設ケテ人性ノ善ナルヲ説明スルカ如キ智仁勇ノ三德ハ我邦上古以來固有ノ大道ニシテ漢土ヨリ輸入スル者ニ非サルコトヲ闡發スルカ如キハ此書ノ尤モ精采アル所ニシテ以テ教育聖論ノ好注脚トナスベシ今回弊舗先生ノ承諾ヲ得テ之ヲ出版セリ海内教學ニ志有ルノ士一本ヲ購フテ之ヲ讀マハ以テ東洋倫理ノ西洋ニ優ルノ萬萬ナルヲ曉ル可シ

發行所 名古屋本町通 鉄砲町二丁目 靜觀堂 三輪文次郎

發賣所 東京神田區表神保町六番地 女學雜誌社書店

● 生徒各級欠員募集

大坂道修町二丁目 關西女子高等學校

○申込四月十日迄○寄宿ヲ諾ス○内外教員十四名○學科ノ外活花茶式琴○成績ハ最モ速成ニ注意ス○四月十日迄ノ所遠國ヨリ申込非常ニ多ク其便利ヲ謀リ延期候志望者ハ至急申込アリタシ

女學雜誌定價表

册數	定價前金	市外定價郵税共
一册	金六錢	金六錢五厘
十册	金五十八錢	金六十三錢
廿六册(半年分)	金一圓四十三錢	金一圓五十六錢
五十二册(一年分)	金二圓八十錢	金二圓八十六錢

發賣所 東京市神田區表神保町六番地 女學雜誌社書店

明治廿六年四月廿五日内務省許可
明治廿七年四月二十日印刷
明治廿七年四月廿一日發行

東京市麹町區下六番町六番地
發行兼編輯者 巖本善治
仝 牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地
印刷者 根岸高光
東京北豐島郡王子村下十條八百五十一番地
發行所 女學雜誌社
仝 牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所 株式會社秀英舍第一工場(電話十九番)